

限られた予算です
で、今後も適正な優先順
位をつけながら村道整備
を図っていきます。

次に、下福良集落と椎
葉小学校対岸を連絡する
道路開設は、平成21年度
に間伐等森林整備促進対
策事業を活用し作業道と
して、幅員3m、延長58
1mが開設しています。
本年度も、国の補助事業
を活用した森林作業道と
して、幅員3m、延長70
0mの補助申請が行われ
ています。

村も、本年度の開設延
長上には村有林を有し、
補助事業を活用した作業
道開設に当り、受益者と
しての応分の負担が必要
であると考えます。

質問 少子化対策のための新 たな制度づくりについて

この問題については、3
月議会でも質問をしまし
たが、改めて違った角度か
ら施策提案を行い見解を
求めます。

私が申し上げるまでも
なく、少子化社会が進む
中で、子供たちは村の将
来を担うかけがえのない
宝であります。平成22年
度に誕生祝い金証書の交

付を受けた出生児は16
人。同じ年度内に転入し
た14歳以下の子供たちも
17人います。転入した子
供たちに対する支援策と
して、誕生祝い金支給制
度をそのまま当てはめて
いただきたいということ
ではないが、これまでの村
長答弁にもあった、子供
たちに対する行政の優し
い気持ちと支援策とし

て、転入した子供たちに
対しても出生祝い金に準
じるような施策を示すべ
きだと考えます。そのこ
とによって、椎葉に子供を連
れて帰つても安心だ、椎葉
に赴任してみたいという
人たちがあらわれ、少子
化対策の一助になるので
はないかと考えますが、
村長の見解をお伺いしま
す。

村長

子供たちが村の将来を
担う宝であるという思い
は皆同じで、3月定例会
でのとおり、本村の子育て
支援は、チャイルドシート
購入助成、中学校までの
医療費の無料化、奨学金
貸付金の返済の緩和等、
独自の施策を数多く取り

組んでいます。この取り組
みは、転入された子供た
ちにも皆該当され、経済
負担が軽減されると大変
喜ばれています。

今後の少子化対策につ
いては、金銭的な援助ば
かりでなく、若者の定住
を促進し、婚姻数を増加
させるなど、あらゆる課
題を検討しながら魅力あ
る村づくりを目指し、安心
して子育てができる環境
を整備することが必要で
す。

特にこれから椎葉の将
来を担う若い皆さんの声
を聞きながら、この問題に
ついて取り組んでいきま
す。

椎葉大和議員



質問

東日本大震災に対する 村の対応について

去る3月11日に、千年に

一度と言われている東北地
方で発生した東日本大震
災は、日本国全体に多大な
被害を及ぼしました。死
者、不明者の合計は2万
人を超えるものと予想さ
れ、発生から3カ月以上
経過したにもかかわらず、
被害の全体像が把握でき
ない状態が続いています。
そのような中、全国各地
で被災者の方々の受け入
れが進んでおり、宮崎県
においても被災者の受け
入れが行われている所で
す。

村には、現在使っていな
い住宅が数多くあるかと
思います。休校、廃校とな
っている建物などを含め、
そのような住宅を被災者
の方々のために提供でき
る体制を整えることが必
要であると思います。沿岸
部と比べて地理的に不便
な地域であることは否め
ないが、受け入れ体制を
整えることは、自治体と
して行わなければならない
ことだと思っています。

また、災害の際には、役
場の職員も重要な役割を
果たされることだと思い
ます。職員の危機意識、管
理等のさらなる向上を図
る意味からも、例えば、福

祉保健課から2、3名派
遣するとか、各課から1
名派遣するといったよう
な、現地に数日間、2、3
班に分かれてボランティア
活動として赴き、復旧
作業を行って、災害の実情
を実際に体感してもらう
ことが必要ではないかと
思います。行政の考えを
お尋ねします。

答え

本村の村営住宅の2戸
を被災者受け入れ用とし
て確保しています。

人的支援については、こ
れまでに県からの要請等
があり、町村会長として
も、各市町村に要請を行
っています。阪神淡路大震

災の時にも、保
健師の派遣をし
た経験もあり、
技術者の派遣が
被災地にとって
は必要ではない
かと担当課と協
議を行ってきま
した。

しかしなが
ら、1カ月から
2カ月ほどの派
遣を要するなど
の要件があり、

こちらの業務の都合上派
遣がかなわなかったとこ
ろです。現地では、被災者
に対する心のケアが最も
重要な課題となってきた
いますし、今後の派遣依
頼等に対してはそのつど
全庁的に協議を行い、県
や町村会との連携を図り
ながら積極的に対応して
いきます。

それから、村民の皆様
から義援金として頂いた
376万円は赤十字に振
り込み、平成16年、17年災
害に、柳田国男の関係で
遠野市から見舞金を頂い
ていました。その庁舎が崩
壊して20数億の被害があ
るので見舞金を送りまし
たことも報告します。



椎葉信紘議員



質問

雇用促進対策について

今、私たちのふるさと椎葉村の人口は、現在3000人をわずかに超えるまでに減少してきています。村行政の主要課題の一つが、雇用促進対策による人口の定着化、増加であると認識しています。一人でも多くの住民がふるさとに定着し、一旦は村外に離れた村民も、再び村に帰って安定した職を得るような雇用の創出、拡大の取り組みが必要である。その実現に繋がるための村行政としての施策がサポートされている事が大事だと考えます。

第4次長期総合計画の中では、村づくりの基本理念として、「三世代桃源郷」を挙げており、行政と村民が一体となって精いっぱい

ます。中山間地域を取り巻く昨今の諸情勢は年々変貌してきており、現在、第4次長期総合計画の最終年次目標であった3100人を既に下回っている現状であります。

そういった視点から、現在、休、廃校になっていく学校施設の有効活用は図れないものかということです。例えば、仲塔小学校が閉校して9年になります。これを必要最小限に改装して、高齢者の機能回復訓練を含めた、生きがいを感じる施設として、あるいは村外に村内出身者の待機者がいる状況の中で、特別老人ホーム等の開設など、介護や指導を含めた施設としての利活用は、若者の雇用の場の確保ともなり、この村の人口減少に歯止めをかけ人口の保持と増加のための一つの方策ではないかと考えますが、村行政としての見解を伺います。



頑張っている事業主の方々が、存続か断念かの重大な岐路に直面している。現状を認識して、起死回生の策を授けるべく、村行政の最重要課題と位置づけるよう質問をします。

答え

村長

人口流出をいかにして食い止めるか、村外に生活拠点

進のために頑張っている商工業の事業主の方々の経営努力を助長するために、村行政としての財政的支援措置を講じ、その育成・振興を図られないものかと考えます。各事業主の方々は、零細、小規模であるがゆえに、恒常的に大変厳しい財政状況の中で、従業員の雇用関係も含めて厳しい経営を強いられており、打開策がなかなか見出せない実態にあります。小さいながらも、村の将来を背負って

を置いている皆さんをいかに村に呼び戻すか、そして定住させるかが現在の村では非常に難しい課題です。林業後継者不足、耕作放棄等もあり、第1次産業の見直しを行うことも必要です。このような課題について、第5次長期総合計画を策定する上で十分に議論を行い、村の将来像を描いていきたいと考えますし、福祉施設で一番気になっている、平寿園に入れない待機者が増加している状況で、大

移動も一つの視野に入れながら施設の拡充を図りたい。

また、平成23年度は、24年度から3カ年計画で第6次高齢者福祉計画及び第5期介護保険事業計画を策定する年度です。これに先立ち平成22年度にアンケート調査を行い、村民の皆さんからの高齢者福祉に関する意見を伺いました。意見の中には、施設の充実、将来の介護についての不安を感じている方も多数います。施設の整備については、介護保険事業計画を策定していく中で、十分な議論を尽くしていきたいと考えます。

仲塔小学校については現在休校中で、教育委員会が地元の意向を重視しながら意見を聞いています。本年度中に仲塔公民館として意見をまとめるようお願いしています。仮に廃校になっても、高齢者施設としては段差があり厳しい状況もあるので別の利用法も検討していきます。

き、事業者の皆さんと意見交換等を行っていきま

一番肝心なことは、人数を増やすため、雇用を増やすための補助というより、そこで生産されたものをいかに販売するか、流通面のことも真剣に考える必要があります。少しでも生産されたものが売れていくと雇用促進にも繋がりますので、事業者と、商工会と協議をしながらどう進めていくのか検討します。

